

■来賓挨拶：国土交通省港湾局産業港湾課長 水谷 誠



皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました国土交通省港湾局産業港湾課長を努めております水谷と申します。私がおります産業港湾課は産業政策と港湾の関わりその他、賑わい、クルーズを所管させていただいております。その関係で本日呼びいただいたと理解しております。

本日は「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」の講演会の開催、誠にありがとうございます。また、本日お集まりの皆様方には常日頃から港湾行政に対しましてご理解とご支援頂いております事、この場をお借りして感謝申し上げます。

この「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」は、平成7年から始まっておるということで、今年もう22年目という事でございます。これまで港湾を核とした日本海沿岸地域の連携交流、みなと町づくりにご尽力されてきた方々におかれましては、深く感謝を申し上げます。せっかくの機会ですので、私から2つほど最近の日本海をめぐる状況について少しお話をさせていただきたいと思っております。1つは、今市長からもお話がありましたようなクルーズの話であります。皆さんご存知の通り、全国的にクルーズ船の寄港がものすごく増えております。また、クルーズ船で日本に入国される旅客の数も非常に増えてきております。こういった事が日本全国で今後しばらくは続くだろうと思っております。こうした中、特に日本海側では今年非常にエポック的なお話がありました。ご存知の方もおられると思いますが、コスタクルーズ社が日本海の4港と釜山港を巡って全部で5港

を5泊6日というようなクルーズを7月から9月に合わせて10回。この商品を今年初めて販売をされており、非常に好評だったということでした。実は来年も少しバージョンアップと言いますか、日本海側のさらにもう1港増やして5港と釜山港で、全部で32回のループの商品を販売するということになってございます。こういった日本海をターゲットとした寄港地とするあるいは観光の目的地としたクルーズの商品が出てきたということは非常に喜ばしいことでもありますし、また、クルーズ船社側から見ても日本海側の港あるいは港の背後の地域は観光地として非常に評価されているのではないかと考えております。それでもまだ寄港地は少ないものですから、益々それぞれの寄港地で観光資源を磨いていただいで寄港していただくように努力をしていただければありがたいと思っています。

2つ目はロシアの話でございます。9月2日に安倍総理とプーチン大統領の首脳会談が、ウラジオストックで行われておりますので皆さんも報道等でご存知かと思いますが、ロシアでは最近極東の開発を熱心に行うというふうに聞いております。特に極東の港の開発がその中に含まれてございまして、ロシアの極東港湾はロシアからの資源等の輸出、それから日本からの完成自動車等の輸入で港湾の開発を熱心にやろうというふうに聞いてるところでございます。そういう意味で環日本海貿易と言いますか対岸貿易について、物流がずいぶん変わってくるというふうに将来的にも視ております。このように非常にチャンスでもありますので、情報収集したりあるいはそのために各港で準備をしていただいたり環境の変化に柔軟に対応出来るようになっていただければと思っています。もちろん国の方でも色々な手をこれから打っていこうと思っているところでございます。いずれにいたしましても、この日本海の港をめぐる動きが大分変わってきたと我々も認識しておりますので、ぜひ今後もこのネットワークの連携を通じながらしっかり対応していただければと思っています。最後になりましたけれども、本日の講演会の開催にあたりまして、ご尽力いただきました地元の稚内市の工藤市長始め皆様方に感謝申し上げますと共にこの会の盛会をご祈念申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。